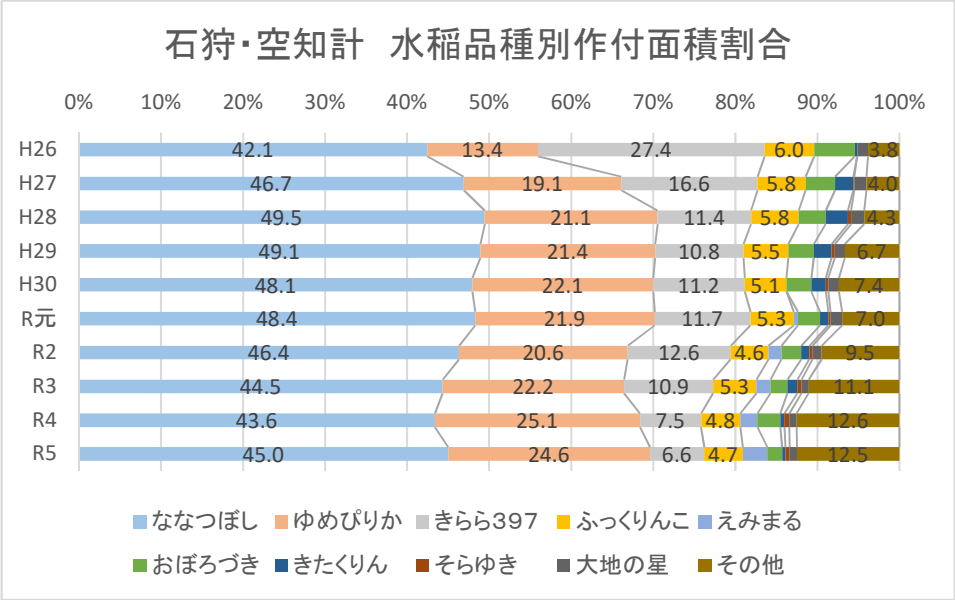
水稲の作付状況

管内の水稲品種別作付面積割合の推移　（石狩・空知のみ）

〇「ななつぼし」「ゆめぴりか」が中心、「きらら397」が減少

平成26(2014)年からの年次別の推移では、ななつぼしが一貫して4割以上を占めています。ゆめぴりかは平成27(2015)年以降は2割前後で推移している一方で、きらら397は減少傾向で、令和5(2023)年には6.6%となっています。ふっくりんこは近年は5%前後で推移しています。

また、近年の農業者減少や高齢化により、農作業の省力化の必要性が高まる中、主に直播栽培用（主食用）の「えみまる」(令和5年は3.0%)や、その他の品種が増加しています。



資料：北海道農政部調べ

※ 「その他」には、「そらきらり」(主食用、多収)、「ゆきひかり」（主食用、特定需要）、「そらゆたか」(飼料用)、「吟風」（酒米）などが含まれる。

※ 札幌開発建設部管内のうち、石狩および空知管内のみの数値。上川管内幌加内町は除く。

管内の水稲品種別作付面積割合の推移

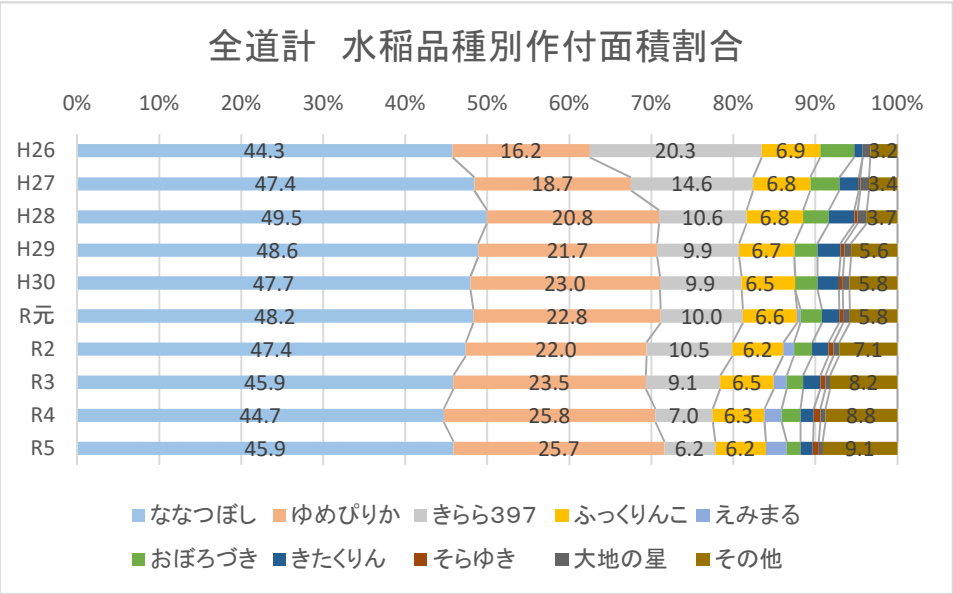
【参考】全道の傾向との比較

〇管内の傾向と全道の傾向は類似

全道の品種別作付面積割合は、管内の品種別作付面積割合とほぼ同様の傾向を示し、令和5(2023)年においてはななつぼしが45.9%、ゆめぴりかが25.7%、きらら397が6.2%となっています。

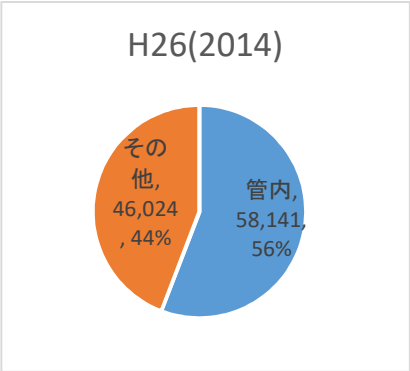
その理由としては、管内が全道の米の作付面積の半分以上を占めて(米の半分以上を生産して)おり、全道の傾向に直接影響を与えているためと考えられます。

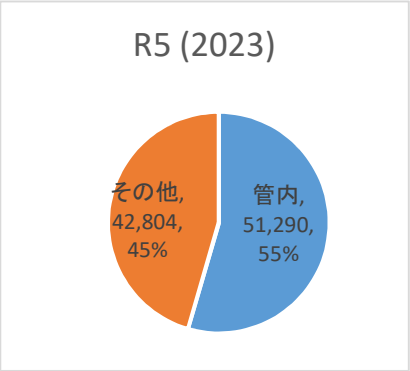
ただし、ふっくりんこの割合が管内単独の場合に比べてやや高くなっています。



資料：北海道農政部調べ

【参考】全道の水稲作付面積割合に占める、管内の割合





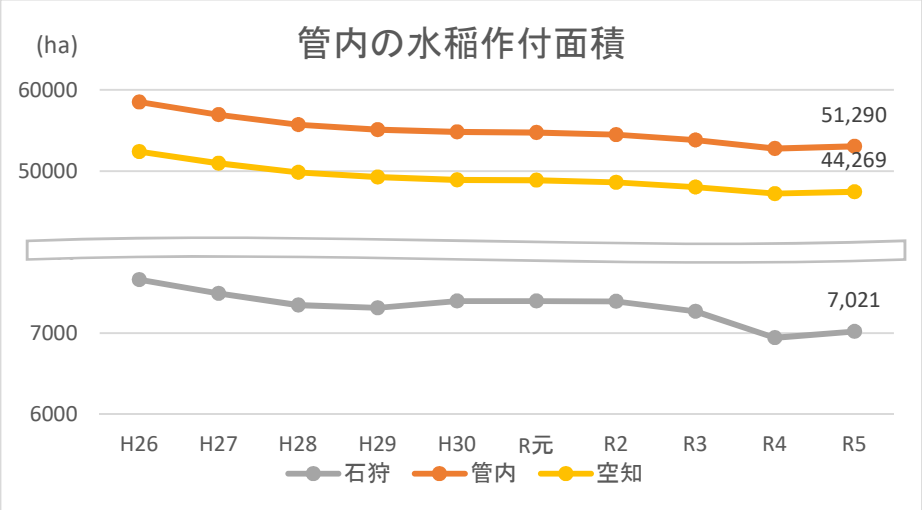
管内の水稲作付面積の推移

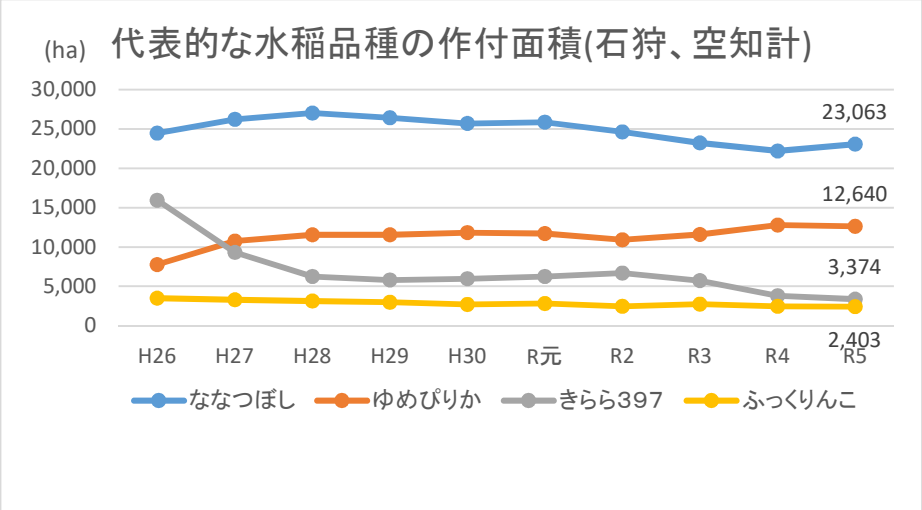
〇全体面積は減、ななつぼしは横ばい、ゆめぴりかは増加～横ばい、きらら397は減

管内の水稲作付面積は平成26(2014)年から令和5(2023)年の間では減少～横ばい傾向にあり平成26年に58,141haであったものが令和5年には51,290haとなっています。

品種別では、ななつぼしが近年横ばい傾向、ゆめぴりかが増加～横ばい、きらら397が減少しています。

平成26年および令和5年の作付面積はななつぼしが24,470ha→23,063ha、ゆめぴりかが7,772ha→12,640ha、きらら397が15,948ha→3,374haとなっています。





資料：北海道農政部調べ

※「管内の水稲作付面積」は、うるち米のみの数値。もち米は含まれない。

※　札幌開発建設部管内のうち、石狩および空知管内のみの数値。上川管内幌加内町は除く。